音声研究会ワードテンプレート (タイトル)

－研究会資料形式 (サブタイトル)－

音響 花子† 音声 太郎‡

†第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田1-2-3
‡大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田4-5-6

E-mail: †hanako@onkyo.ac.jp, ‡taro@onsei.co.jp

**あらまし** Microsoft Wordによる音声研究会資料形式のテンプレートファイルです．

**キーワード** Windows，Word，音声研究会，テンプレート

Word Template (Title)

－The Format of Proceedings (Subtitle)－

Hanako ONKYO† and Taro ONSEI‡

†Faculty of Engineering, First University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan
‡R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: †hanako@onkyo.ac.jp, ‡taro@onsei.co.jp

**Abstract** 　This is a word template file for Transactions on Technical Committee of Speech.

**Keywords** Windows，Word，Technical Committee of Speech，Template

1. 原稿用紙
	1. タイトルその他(1ページ目上部)に関して

音声研究会資料の1ページ目上部には，タイトル，発表者氏名，所属，住所，メールアドレス，キーワードの和文と英文及びあらまし(和文300字程度，英文100語程度)をそれぞれ記述してください．

[招待講演]の方はタイトルの前に[招待講演]とお入れください．

* 1. 本文に関して

本文は1.1の「タイトルその他」に続けて記述してください．記述に関しては，このテンプレートファイルを用いて作成するか，あるいは，任意のA4判の用紙を利用することができます．その場合には，本文は左右18cm，天地25.5cm以内の長さにおさまるよう行間・字間を調整してください．

1. 原稿提出枚数

ページ数の上限は6枚です．図・表，文献リストを含め必ず制限枚数以内で作成してください．

1. 原稿の書き方

フォント色：黒とします．紙原稿の場合，印字のカスレや濃淡のムラがないようご注意ください．

文字の大きさ：本文は9ポイント活字を標準とします．字間および行間は適宜調整してください．なお，標題は拡大文字とするのが望ましいです．

1. 図と表

原稿の適切な位置に張り付けてください．電子版の研究会資料はカラーですが，冊子資料は原則として白黒印刷しますのでご配慮ください．

* 張り付けたものが原稿用紙の枠をはみ出ないこと．
* 図面，写真，表の文字や数字は本文と同じ大きさであること．
1. 著者贈呈分

出来上がりました音声研究会資料は１件につき１部(合本)贈呈します．発表当日受付の担当者に発表者である旨お申し出ください．

1. PDF入稿について

PDF原稿を作成の上，添付ファイルにてご提出くださいますようお願いします．PDF入稿が困難な方は幹事までご相談ください．

1. 著作権

ご提出いただいた原稿は，当該研究会のために音声研究委員会および共催団体が共同または個別に発行する資料に掲載され，配布されます．

原稿の一部（題目・アブストラクト部分）の抜粋による資料が作成される場合があります．また，原稿は音声研究委員会または共催団体によって将来アーカイブ化されて発行される可能性があります．

以上は，日本音響学会著作権規定（<https://acoustics.jp/overview/copyright/>）にもとづいています．

1. 原稿提出

Emailへの添付にてPDFファイルを下記メールアドレスへご送付ください．

(問い合わせ先)

音声研究委員会幹事団

E-mail: asj-spcom-kanji@googlegroups.com

**文 献**

1. (雑誌の場合) 著者名，“標題，”雑誌名，巻，号，pp.を付けて始め－終りのページ，月(英語)年.
2. (雑誌例1) 山上一郎，山下二郎，“パラメトリック増幅器，”信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
3. (雑誌例2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, “diffusion of impurities during epitaxy,” Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
4. (著書，編書の場合) 著者名，書名，編者名，発行所，発行都市名，発行年．
5. (著書，編書例1) 山田太郎，移動通信，木村次郎（編），pp.21-41,（社）電子情報通信学会，東京，1989．
6. (著書，編書例2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
7. (著書の一部を引用する場合) 著者名，“標題，”書名，編者名，章番号またはpp.を付けて始め－終りのページ，発行所，発行都市名，発行年．
8. (著書の一部引用例1) 山田太郎，“周波数の有効利用，”移動通信，木村次郎（編），pp.21-41，（社）電子情報通信学会，1989．
9. (著書の一部引用例2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratlliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
10. (国際会議の場合) 著者名，“表題，”会議名，no.を付けて論文番号，pp.を付けて始め－終りのページ，都市名，国名，月（英語）年．
11. (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept.1990.
12. (国内大会，研究会論文集の場合) 著者名，“標題，”学会論文集名，分冊または号，no.を付けて論文番号，pp.を付けて始め－終りのページ，月（英語）年．
13. (国内大会，研究会論文集例1) 音響花子，音声太郎，“音声研究会ワードテンプレート （タイトル）－研究会資料形式 （サブタイトル）－，”日本音響学会音声研資料, vol.40, no. 2, pp.1-6, Sept. 2010.
14. (国内大会，研究会論文集例2) H. Onkyo and T. Chokaku，“Word Template (Title) –The Format of Proceedings (Subtitle) -,” Proc. Auditory Res. Meeting, ASJ, vol.40, no. 2, pp.1-6, Sept. 2010.
15. (国内大会，研究会論文集例3) 川上三郎，川口四郎，“紫外域半導体レーザ，”1995信学全大，分冊2,no.SB2-1,pp.20-21,Sept.1995.